

生活介護サービス向上の取り組み ～グループワーク活動の紹介～

岡村 美紀（新潟県障害者リハビリテーションセンター 生活支援員）

1. はじめに

生活介護の目的は日常的に介護を必要とする方に対して、日中に生活等に関する相談・助言その他の必要な日常生活上の支援、創作的活動のほか、身体機能や生活能力の向上のために必要な援助を行うことである。

新潟県障害者リハビリテーションセンターでは、より質の高いサービス提供に向けて、生活介護を利用されている方を対象にグループワークと言う形で、様々な活動を行っている。

今回、そのグループワークの具体的なサービス内容について報告する。

2. 利用者について

定員6名、登録者は9名となっており、各曜日2～6名の方が利用されている。障害支援区分については以下の通りとなっている。

障害支援区分

- ・区分6：1名
- ・区分5：5名
- ・区分4：2名
- ・区分3：1名

利用されている方の年齢は19～63歳と幅広く、平均年齢は37歳となっている。生活介護は利用期限がないため、6年利用されている方が最長となっている。他事業所のサービスと組み合わせている方が多く、一人平均、一週間に2日利用されている。

知的障害と重複した身体障害の方が多く、特別支援学校卒業後の利用が多い傾向であったが、最近では40～50代の方の利用も増えている。脳血管疾患により障害を持ち、年齢的にも介護サービスではなく障害サービスを利用して、同世代の方と一緒に社会参加に向けて訓練がしたいというニーズが高まっていることが伺える。

3. サービスの目的と内容

1つ目として、「利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことのできるよう、通所によりサービスを提供すること」となっている。具体的な内容として、職業的リハビリテーションの一般教養、手工芸、パソコン、スポーツレクリエーション、自主トレーニング、医学的・身体的リハビリテーションの理学療法、作業療法、言語聴覚療法となっている。

利用者の方々にはそれぞれの希望を基に時間割が作成され、その時間割に沿って訓練に取り組んでいただいている。職業的リハビリテーションを基本として、生活介護サービスを利用されている方は週に1回程度、医学的・身体的リハビリテーションの時間も組み込まれている。

2つ目は、「利用者の日常生活における余暇活動の充実、及び趣味的活動の拡大を支援すること」となっている。当センターでは生活介護の利用者の方を対象に「グループワーク」を行っている。具体例を挙げて紹介していく。

4. グループワークの内容

①外出

「どこに行くか」「何をするか」「どうやっていくか」等、職員はサポートを行うが、基本的には利用者の方が主体となり、計画立案から取り組んでいただいている。JRやバスを利用する際は、予約の電話も利用者の方が訓練として行う。楽しむだけでなく、公共交通機関を利用したり、他利用者の方と協力しながら計画・実行することで協調性や社会性を身につけることを目的に行っている。外出訓練での課題は、重度の障害者が使用できるトイレの設置場所が少ないことで、一日を使った外出訓練ができない状況である。

②買い物

外出をする機会や実際に何か物を買う機会が少ないこともあり、「店内のどの辺りにどの商品があるのか」「支払い方」「品物のおおよその値段」等が分から

ないという話が利用者の方やご家族から聞かれた。そこで、買うものを事前にメモし、その品物によって必要である程度の金額を持参していただき、実際にスーパーやホームセンターでの買い物を定期的に繰り返し行うことで経験を積んでいただいている。

③園芸

花を育ててサシェにしたり、サツマイモを育て焼き芋にしたりと、育てて終わりではなくその後に生かせるようなものを園芸として行っていただいている。生活介護の利用者の方は週 2 日程度の利用の方が多いため、当番表を作成していただき、曜日ごとに手分けをして水やりを行っていただいている。植え方や育て方を調べていただくこと、植え付け、水やり等の全ての工程に関わっていただくことで、育てることの大変さを感じることができ、食べ物のありがたみを学ぶことができているようである。自分たちで作った野菜はより一層美味しく感じられるようで、毎年楽しみにされモチベーション高く取り組まれている。

④調理

クリスマスやバレンタイン等の行事を楽しむことや、調理器具の使用方法を学んでいただくことを目的に行っている。調理の経験が少ないために器具の使い方が分からなかったり、自分の作業に集中してしまい周囲と協力して取り組むことが難しかったりと、声かけやサポートが必要な様子も多く見られる。しかし、まずは御自分で行っていただき、どこに支援が必要なのか、どう支援を依頼したらよいのか等も一緒に考え、御自分で行っていただきながら必要に応じて上手くサポートが受けられるよう訓練をしている。

また、作った物をラッピングし、他の利用者の方や職員にプレゼントすることで、自分たちの作った物を食べてもらう喜びを感じることでできる機会にもなっている。

⑤金銭管理

買い物のグループワークを行う中で「品物のおおよその金額が分からない」「実際に支払う際にスムーズに支払えるようになりたい」という声が聞かれた。作るメニューや状況を想定し、それに必要な品物をチラシから選び合計金額を計算していただく。その金額を手持ちのお金から一番おつりの少ない方法で支払うという訓練を繰り返し行っている。

訓練を重ねることにより少しずつ余裕が出て、お互

いに声をかけながら取り組まれる様子が増えてきたようである。

5. まとめ

生活介護サービスのグループワークでは、定期的に行うものだけでなく他にも「子どもに関するボランティアがしたい」という希望に対して紙芝居の読み聞かせ練習を行う等、その時のニーズに応じて活動をしている。生活介護を利用している方々は、日常生活において介護が必要であり、健常者が当然のように行っていることも「経験」をする機会がなかなか得られない状況にある。グループワークを通じて楽しみながら経験を積み、自信をつけたり反省点をまとめることで社会性や協調性等、様々なことを身につけることができよう、今後も支援をしていきたい。